

令和6年度第1回青少年ホーム運営委員会 会議録（要約）

1 日時

令和6年6月27日（木）19時05分から20時45分

2 場所

松本市なんなんひろば 会議室

3 出席者

坂本誠治委員、中葉里委員（オンライン出席）、曾根原考俊委員、高橋君江委員、二茅真由美委員、小澤美智子副委員長、勝亦達夫委員長

4 事務局

廣田生涯学習課長、永井青少年ホーム所長、小船井青少年ホーム主事

6 議事

- (1) 令和5年度事業報告・会計報告について
- (2) 令和6年度事業計画・予算（案）について
- (3) 意見交換

7 意見

- (1) 令和5年度事業報告・会計報告について
 - ・（坂本委員）資料4ページのスノーボードスクールについては、1泊2日で開催してほしいです。日帰りだと、実質5時間滑るだけなので、特に初心者は、慣れ始めたところで、あっという間に終わってしまうからです。また、ウインターパーティーについては「本当に参加者が集まるのか、開催できるのか、どんな開催内容なのか。」と不安に感じました。参加者が出やすい工夫をしたらどうかと思います。例えば、ゆめひろば庄内で開催したパーティーは、会費が500円で大変人気があり、参加者が多いため、申込ができませんでした。飲食より、開催内容や出会いの方が重要だと思います。
 - ・（小船井主事）スノーボードスクールについては、昨年度は旅館を探しましたが、大人数を受け入れていただくところを見つけることができませんでした。しかし、前回委員会でも委員の方から同じ要望がありましたので、検討していきます。
 - ・（小澤副委員長）出会いのイベントは、参加希望者はいると思いますが、機会がない状態だと思います。業者による会員加入・イベント参加だと会費が高額になるため、行政主催のイベントは必要だと思います。
 - ・（勝亦委員長）ハタチの記念式典での実行委員が少なくなっている原因は、どこにあるでしょうか。また、実行委員を増やすための案はありますか。
 - ・（中委員）当日は、実行委員として活躍するより、友人との時間を過ごしたい気持ち

が上回る人が多いためだと思います。例えば、人数に偏りが生じるかもしれませんが、大学のサークル等の団体に実行委員の依頼をしたらいかがかだと思います。

- ・内容について、承認されました。

(2) 令和6年度事業計画・予算（案）について

- ・（高橋委員）ヤングスクールの生け花講座は、今回の夏期も3回講座で計画をしていただきましたが、参加申込者は1名です。ヤングスクール後、もう少し生け花をやってみたいという方は、サークルの花子クラブに入部している方もいます。
- ・（永井所長）参加申込者が少ないことにつきましては、事務局の周知不足が原因であり、お詫びいたします。しかし、サークルの花子クラブに入部され、継続活動をしている方がいることは、素晴らしいと思います。
- ・（勝亦委員長）DX化により、情報量が過多傾向になっています。アナログではありますが、口コミやチラシの手渡しがあります。また、予定が決まっている事業は極力一覧表等で掲載した方がよいと思います。
- ・（曾根原委員）先まで予定を出すことは、NGではないと思います。利用者登録も、令和元年度の数値までに回復できればいいと思います。
- ・（坂本委員）市内の各公民館にも、チラシを配架する等を行い、青少年ホームの存在を知ってもらえる取組みをした方がいいと思います。ポスター掲示だけでも違うと思います。
- ・（小船井主事）あまり先の事業を掲載しても、ピンとこないのではと思います。
- ・（廣田課長）大学でポスターやチラシを掲示していただくことは、難しいですか。
- ・（勝亦委員長）あまり掲示物が多いと、事務局側で嫌がれてしまう可能性があります。
- ・（二茅委員）スノーボードの保険については、どのように取り扱っていますか。
- ・（小船井主事）申込の際に保険加入をし、会費の中にも入っています。
- ・（二茅委員）若い方々は、友達を作るため携帯のグループLINEを使い、連絡を取り合っていることが多いようですが、LINEに関するトラブルは、これまでにありますか。
- ・（小船井主事）青少年ホームで関与しているLINEは、ハタチの記念式典実行委員会の実行委員と事務局との連絡、情報共有くらいですが、特にトラブルはありません。
- ・（坂本委員）青少年ホーム利用者の会でもLINEは利用していますが、殆どが連絡や情報共有が目的なので、トラブルはありません。
- ・（勝亦委員長）青少年ホームの登録手続をデジタル化できれば、登録者の増加につながると思います。

- ・内容について、承認されました。

(3) 意見交換

ア 若者支援の部署新設について

- ・(勝亦委員長) 1つの課にまとめると、業務や要望等が集中して、やり切れなくなると思います。よって、部署は1つでなくても良いと思います。むしろ、現在の組織でも良いので、横の連携が必要だと思います。また、外部からの発信を受け止め、担当課に振り分ける窓口・担当課が必要だと思います。

イ その他(事業の周知方法等について)

- ・(中委員) 現在の学生は、コロナウイルス感染5類分類後、旅行したり外部とつながりたい要望を持つ人が多いです。よって、研修会の一部補助等をしていただくと大変有難いです。また、周知方法の一案として、サークルのキャプテン会議等の場で情報発信するのが良いと思います。関係外のサークルだと、情報が入ってこない場合が多いです。
- ・(小船井主事) SNSやチラシの配架や送付等は常に行っているのですが、他にどういう方法が効果的かと考えてしまいます。
- ・(二茅委員) ジョイフルの事業につきましては、新聞の無料掲載欄への掲載依頼を行っています。また、市やNPOの主催事業が新聞に募集掲載されることにより、ひきこもり当事者の家族の方から、安心して参加ができると感じ、問い合わせや申込をいただくことが多くあります。
- ・(勝亦委員長) 例えば、文化祭で学生にチラシを直接渡す等、ターゲットを絞ったPR活動が効果的と考えます。